キリスト教保育を中心として子ども達を育む

「子ども達を私のところに来させなさい。妨げてはならない。

神の国はこのような者たちのものである。」

マルコによる福音書 10章 14節

～子どもは神様から預かった大切な存在～

(1) 教育（保育）の基本方針

幼児における教育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なものである。学校教育法第22条に規定する目的を達成するため、幼児期の特性を踏まえ、環境を通して行うものであることを基本とする。

～教育にあたり重視すること～

- 幼児の「主体的な活動」を促し、幼児期にふさわしい生活が展開されるようにする。
- 幼児の自発的な活動としての「遊び」は、心身の調和のとれた発達の基礎を培う重要な学習であるので、「遊び」を通して次の5分野 ①健康 ②人間関係 ③環境 ④言葉 ⑤表現のねらいが、総合的に達成されるようにする。
- 幼児の生活経験がそれぞれ異なることなどを考慮して、幼児一人一人の特性に応じ、発達の課題に即した指導を行うようにする。

「幼児期の終わりまでに育てて欲しい資質・能力」を常に意識した教育活動の展開

「幼児期の終わりまでに育てて欲しい姿」（10項目）

- ①健康な心と身体 ②自立心 ③協同性
- ④道徳性・規範意識（ルールを守ろうとする意識）の芽生え
- ⑤社会生活との関わり ⑥思考力の芽生え ⑦自然との関わり、生命尊重
- ⑧数量・図形・文字等への関心・感覚 ⑨ことばによる伝え合い ⑩豊かな感性と表現

(2) 教育目標（保育のこころ） “保育の原点がここにはあります”

- ①「キリスト教の教えの中で、人を思いやり愛ある心を育てる」
 - ・いつも神に守られている安心感を持ち、のびのびと生活する。
 - ・子ども達と教師が「感謝」と「思いやり」を基盤とした祈りをもって、毎日をスタートする。
- ②「自然に恵まれた環境の中で、のびのびと遊ぶ」

学院を包む広大で緑豊かな自然の中で感性や創造性を育て、『幼児は遊びで育つ』という理念の下に、計画的、創造的にのびのびと育てる。
- ③「家庭的な温かい雰囲気の中で、ゆっくりと大切に見守る」
 - ・全ての園児を、全ての教職員で見守り育む。そのため、職員は日常的、具体的に子どもを語りあい、保育を語りあって共通理解を持つ。
 - ・保護者、家族とのコミュニケーションを大切にし、ともに子育てについて語り合う。

めざす園児像

- ・ 祈る子
- ・ 挨拶ができる子
- ・ のびのび遊ぶ子
- ・ 自分で考える子
- ・ 思いやりのある子
- ・ 感謝できる子

めざす教職員像

～教師自らが神に喜ばれる人となれるよう、日々人として保育者としての自分を振り返る～

- ・ 常に笑顔で、浚刺と園児や保護者と対する教職員
- ・ どの子ども神様から預かった未来を担う大切な宝物として愛する教職員
- ・ 園運営に進んで参画し、民主的運営に寄与する教職員
- ・ 年間、月間、週間の見通しを持ち、計画的に実践する教職員
- ・ 同僚と協力し、共に研鑽に励む教職員
- ・ 職場に誇りを持つ教職員

(3) 努力目標

◆保育内容の充実

①計画的実践

○全ての行事の起案を早めに ～個人力から組織力へ～

個人の力量には限界がある。みんなのアイディアが出せる場と時間的余裕を確保する。

②教職員研修の充実

○教職員の研鑽を積むことで、より良い保育の実践が展開される。

- ・ 保育の質の向上のため出張研修も出来る限り参加できるような体制作り。
(リモート研修にも積極的に参加できるようにする。)
- ・ 「現職教育」の場を設定し、教育技術や知識の充実を図る教育要領及び教育要領解説を活用し、新幼稚園教育要領の趣旨や内容について理解を深める。
- ・ 一人ひとりの個性にあった支援ができるよう合理的配慮について学ぶ。
- ・ 研修後は、それを共通理解できるよう伝達講習を行う。

③キリスト教保育の充実

- ・ 教育目標（保育のこころ）に基づく保育活動をはじめ、「保育室での礼拝」で毎日祈りをもってスタートさせ、「感謝」と「思いやり」の心を育む。
- ・ ピースチャペルでの「親子礼拝」、「クリスマス礼拝・祝会」等を通して、保護者に理解してもらおうよう充実を図る。
- ・ 学院総宗教主事の鉄口先生、大学宗教主事神田先生におはなしを聞き、子ども達が教会や聖書、牧師に親しみを持つ。
- ・ キリスト教保育の本質（基礎・基本）を学ぶ園内研修を実施。
キリスト教保育（月刊誌）・新キリスト教保育指針・はぐくみ・ぬくもり（キリスト教保育連盟出版物）などをテキストとし勉強会を実施。
- ・ 教会へ足を運び、教師自らがキリスト教を知ろうとする意識を高める。

④ 広大で緑豊かな学院全体の活用推進

- ・園内はもちろん、高等学校、大学のキャンパスを含む、学院の自然に恵まれた広大で緑豊かな自然環境の中で、「心と体の健康」を育む。
- ・「学院内遠足」を実施し、学院内を散策し楽しむ。
- ・「どんぐり拾い」・「梅ジュース作り」・「探検ごっこ」・「散歩」など、多様な活動を行う。
- ・高校グラウンドでの「運動会」、大学西山ホールでの「クリスマス礼拝・祝会」、寮前広場でのキャンプファイヤー（年長お泊まり保育、卒園生夏の集い）の実施。
- ・高校敷地内の「芋畑」で苗植え・芋ほりを実施する。

⑤ 園だより・クラスだより・フォトレター・園長だよりを毎月発行する

- ・月々のカリキュラム（教育課程）や園・クラスの様子を「園だより」や「学級だより」、写真を多数載せた「フォトレター」により知らせ、保護者との信頼関係を構築していく。
- ・読んだ絵本の紹介や子育てに関する情報&園長の想いなどを“園長だより”として発行。

⑥ 園長の読み語り・子育て談話室の更新

- ・絵本に親しむ経験をさせる、また園長が各クラスの子どもの様子を知る。
- ・“園長だより”をホームページ上の“園長の子育て談話室”に載せる。
- ・園長自身も研鑽を積み、保護者に必要とされる園長だよりを配信。
- ・当園の教育方針や集団で育つ力（非認知能力）を積極的に知らせる。

⑦ 自己評価・学校評価で見出した課題を改善目標とする

- ・教育の目的と内容を再確認し、改善を推進する。
- ・毎月の保護者役員会で、行事等についての具体的な意見をいただき、園運営に反映させ、「開かれた園づくり」として、「安心と信頼の構築」を図る。
- ・「教育活動」で育つ力を具体的に、おたよりやブログにて積極的に発信していく。

（４）施設等整備及び環境整備

～保護者様からの施設設備費を使用させていただきます。ありがとうございます。～

- ・スリッパ購入
- ・園児用机・椅子入れ替え
- ・園庭整備
- ・園舎他老朽化への対応
- ・新園舎改築計画の実施

（５）危機管理

- ・子どもの生命、健康を預かっているとの使命感を持ち、学期ごとに全職員で安全点検する。
- ・園児の避難訓練を、年間を通して実施。（各学期２回、年６回実施。不審者、火災、地震）
- ・とくに不審者対策では、正門前の運行部にも協力をお願いしている。
- ・夜間、休日の防犯管理は警備会社に委託し、警備体制をとっている。

- ・不審者対策の道具『ネットランチャー』を設置。(ネットランチャーとは、鉄砲方式で一瞬にネットが3～4m飛び出し、身体に絡みつく防犯対策機器。)今年度、新品購入。
- ・さらに『さす股』及び『ガス噴射器』を設置している。
- ・各クラスに催涙スプレー設置。

(6) コロナウィルス感染症対策

身体面だけでなく、心(内面)にも目を向け、子ども達とその保護者を支える。

行事等については、“ねらい”が達成できるような変更を考える。

- ・毎日の健康観察表の提出(検温・健康状態のチェック)。
- ・マスク着用。
- ・手洗い・うがい、手指消毒の強化。 ・座る時など間隔をとる。
- ・園内、園バスの換気・清掃・消毒液散布の徹底。
- ・全クラス空気清浄機設置(2020年度 国の補助金により設置)。
- ・対面のテーブル使用時は、間に飛沫ガード(2020年度 国の補助金にて購入)使用。
- ・地域で感染者が出ている場合は、可能な限り、全園児集合をしない。
- ・来客に手指消毒をお願いする。
- ・教職員も自己の健康管理に十分留意し、検温をして出勤する。
- ・県内・市内流行時には、全園児での集合を避ける。行事の変更など検討。

(7) その他

◆鎮西学院創立140周年記念行事への参加

- ・子ども達と共に鎮西学院の歴史を振り返り、今あることに感謝する機会を持つ。
- ・記念礼拝、記念平和大行進への参加。